丹後中央病院地域連携ニュース

令和４年８月　　ｖｏｌ.1

～ご挨拶～

公益財団法人丹後中央病院は“自分たちの健康は自分たちで賄う”という地元住民の理念の元、昭和１７年に設立されました。

現在この地域は人口減少、高齢化、医師の確保困難、新型コロナウイルス感染症の流行と、厳しい状況にあります。私たちは長年培ってきた地元住民の皆様との信頼関係を大切にし、「安心・信頼・良質の医療」を基本理念として、この地域を支える医療機関の皆様方と協力しながら、『地域完結型病院』を目指していきたいと思います。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

病院長
藤　田　　眞　一

日頃先生方には、多くの貴重な患者様を地域連携室を通じてご紹介いただき、誠にありがとうございます。

昨今の地域包括ケアシステムを鑑み、医療機関間の連携だけでなく、他の福祉施設、自治体とも連携を密としていく必要があり、ますますこの部署業務の重要性を再認識しております。当院では看護師による入退院支援を含め、病診連携、病病連携を更に推進し、患者様の逆紹介も積極的に行い、利便性を高めていこうと考えています。今後とも当院地域連携室を宜しくお願いいたします。

副院長・地域連携室長
田　中　　寛

消化器内科のご紹介

～消化器内科医のご紹介～

部長　濵田　暁彦
（京都大学 2000 年卒）

医長　楠本　聖典
（金沢大学 2006 年卒）

医員　戸田　潤
（関西医科大学 2016 年卒）

後期研修医　浅野　陽一
（京都大学 2019 年卒）

～施設認定～

・日本消化器病学会専門医制度関連施設
・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導連携施設
・日本胆道学会指導施設（令和４年６月）

≪消化器内科・ご挨拶およびご紹介　　消化器内科部長　濵田　暁彦≫

「都会の大病院や大学病院と同レベルか、それ以上の消化器内科の診断・治療を丹後の地で行う！」ことを決意して、2010 年、私(宮津高校卒・京都大学臨床講師)は、故郷にある丹後中央病院に戻りました。得意の高度内視鏡技術を用いて「楽な胃カメラ」「痛くない大腸カメラ」を実践しつつ、特に「がん」の早期発見・早期治療、化学療法(抗がん剤治療)、また様々な不定愁訴や老衰(フレイル)による体の衰えに対しては総合内科と漢方を融合させた独自の治療を実践することに力を注いで来ました。老衰・認知症、がんやそれ以外の終末期の緩和ケアと看取りも医療チーム全員で協力しながら、この 12 年間たゆまず発展させて来ました。また吐血や血便、総胆管結石や胆嚢結石による急性胆管炎や急性胆嚢炎、閉塞性黄疸、急性膵炎などにも 24 時間 365 日対応しています。特に胆管膵管内視鏡 ERCP や早期がんの切除 ESD、超音波内視鏡 EUS を用いた生検診断 FNA やドレナージ EUS-BD、また小腸内視鏡(バルーン内視鏡)を用いた小腸の診断・治療と、術後腸管の胆膵治療 ERCP といったあらゆる高度内視鏡治療を実践しています。さらには ERCP 後膵炎などの危険な合併症を起こさない方法を研究しながら、確実に早期がんを診断して取り切り、どんな場所でも確実なドレナージを行う技術を究極に高めてきました。後進の指導にも熱心に取り組んで来たため、何人もの優秀な人材が巣立ち、また研修を希望する若いドクター達も年々集まって来る様になりました。そのため消化器内科の患者さんは外来・入院共に年々増えており、今後も北近畿の消化器内科のトップを自覚しつつ、真摯に誠実に研鑽(けんさん)を重ねて行く覚悟です。

(2022 年 7 月 19 日記)

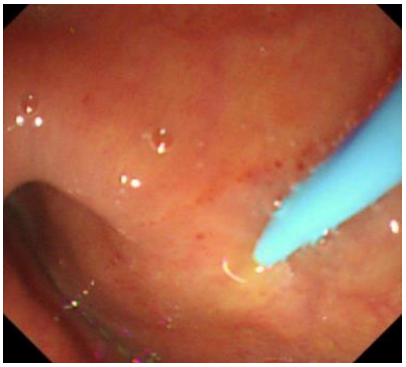
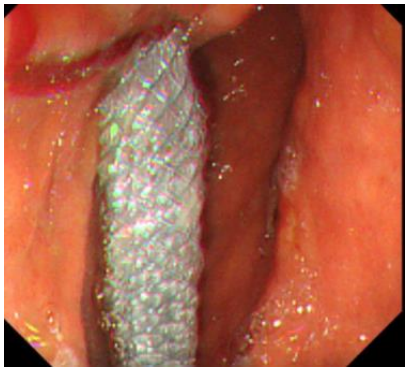
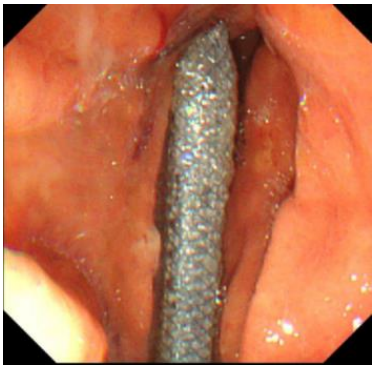
～ＥＵＳ－ＢＤについて～

閉塞性黄疸に対して ERCP による胆道ドレナージや経皮的ドレナージは以前より行われており処置方法も確立されています。しかし術後再建腸管をはじめとした経乳頭的胆管挿管困難例や ERCP に伴う偶発症としての ERCP 後膵炎の問題はなくなりません。そこで近年では経乳頭的胆管挿管困難例に対して超音波内視鏡（EUS）を用いて胆道ドレナージを行えるようになりました。この処置を超音波内視鏡下胆道ドレナージ（EUS－BD）といいます。Interventional　EUS という技術で、胆道だけではなく、胆嚢や膵管にもステントを経消化管的に留置することができる処置で、当院でも積極的に行っております。

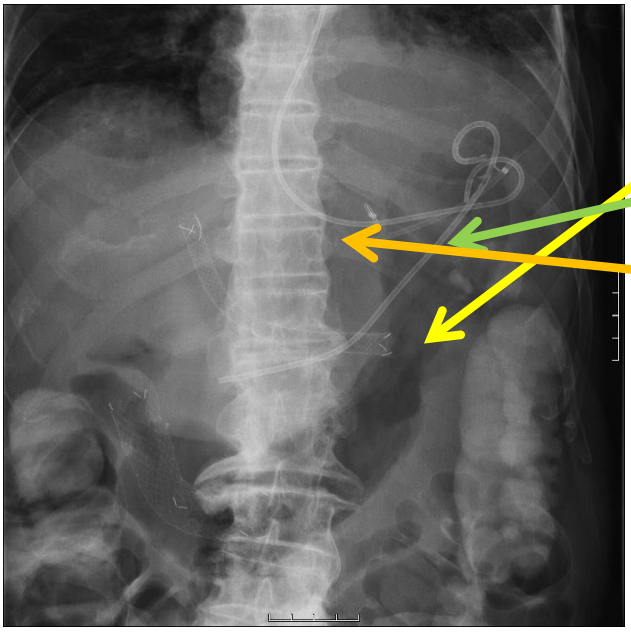
【症例１；膵頭部癌、閉塞性黄疸　EUS－HGS 症例】

経乳頭的処置を試みたが、胸腰椎の高度変形と腫瘍の消化管・胆管浸潤の為、経乳頭的胆管挿管が困難であった。EUS 下に胃内より穿刺針 19G で肝内胆管（B3）穿刺。EUS で micro bubble sign を確認後に造影し、B3 が描出された為、透視下にガイドワイヤーを深部へ進め、拡張用バルーンに変更し拡張。肝内胆管 B3 から胃内に金属ステントを留置した。

その後閉塞性黄疸は改善し、出血や胆汁瘻、ステント逸脱などの偶発症は認めず、ステント閉塞などによる胆管炎の再発も認めていない。

【症例２；膵頭部癌、閉塞性黄疸



＊十二指腸ステント留置

＊EUS－HGS

胆管～胃に 8 ㎜×100 ㎜の金属ステント留置

＊EUS－PD（EUS 下膵管ドレナージ）

膵管ステント留置

＊EUS－CD

脾門部の仮性膵嚢胞

7.5Fr　FLEXMA　ENBD　tube を嚢胞内に留置

経鼻的ドレナージ

＊その他、超高齢であること、重大な基礎疾患を持っていることより、胆嚢的手術が困難で半永久的にドレナージが必要となる為、EUS－GBD（EUS 下胆嚢ドレナージ）も施行。

～４月より赴任しました！よろしくお願いします！～

麻酔科　大橋　賢治（部長）
消化器内科　楠本　聖典（医長）
戸田　潤（医員）
浅野　陽一（後期研修医）
整形外科　里見　健太朗（後期研修医）
泌尿器科　山口　立樹（後期研修医）

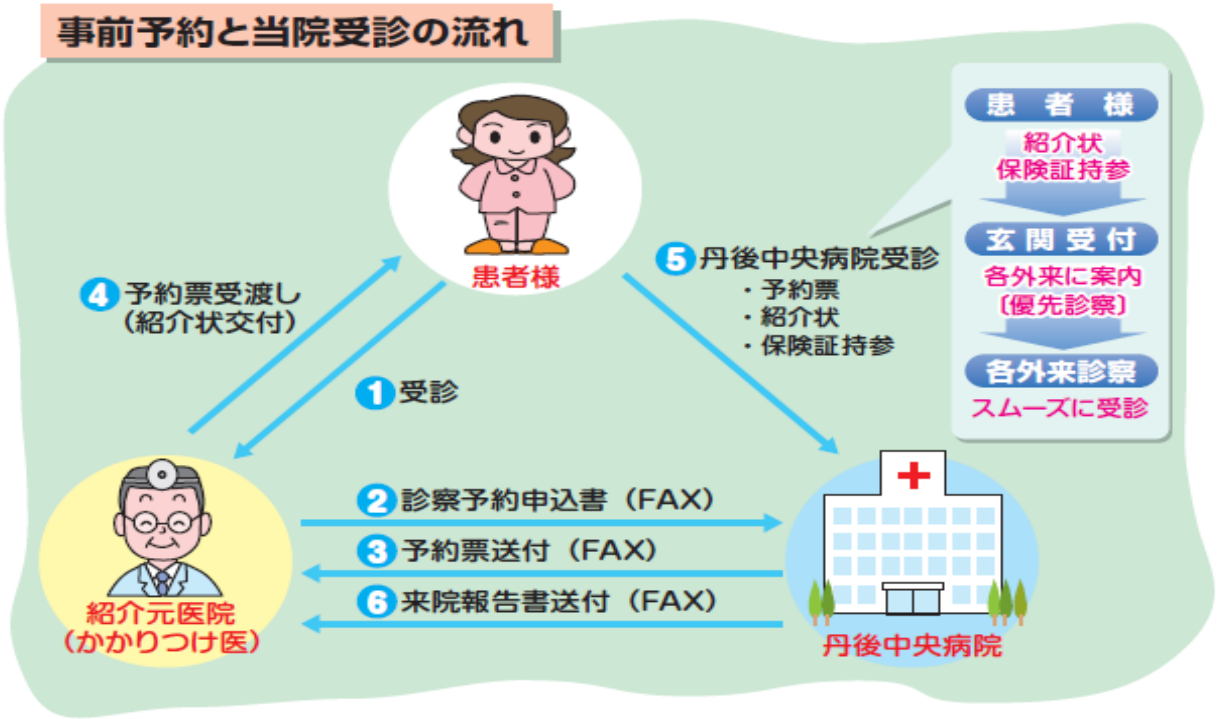
＊各外来担当についてはホームページよりご確認ください。

～地域連携相談部の４月からの体制についてのお知らせ～

耳鼻咽喉科　副院長　田中　寛（地域連携室長）
循環器内科部長　革嶋　恒明（人間ドック健診専門医・指導医）
部長　藤居（社会福祉士）
室長　日下部（看護師）
《地域連携係》　主任　谷口（事務・兼務）、久古（事務）、櫻本（看護師）
《医療福祉相談係》　係長　川﨑（社会福祉士）、中西（社会福祉士）、池部（保健師）
《入退院支援係》　日下部（看護師）、野村（看護師）、櫻本（兼務）
《検診担当》　主任　滝本（事務）、主任　谷口（事務）、吉田（事務）菊池（事務）

ご利用について

地域連携室では、かかりつけ医の先生からのご紹介を通じ、患者さまの転院、外来受診、検査依頼などの予約業務を扱わせていただいています。（下記図参照）



業務時間	月曜日～金曜日　８：３０ ～ １７：００ 第２・４土曜日　８：３０ ～ １２：００
お問い合わせ先	Tel ：（0772）６２-７７３０ Fax ：（0772）６２-２８５２ E-mail：renkei@tangohp.com

発行　公益財団法人　丹後中央病院　地域連携相談部